

第20期 国立市社会教育委員の会（第23回定例会）会議要旨

平成27年4月21日（火）

[参加者] 松田、根本、矢野、川廷、佐藤、猪熊、武澤、柳田、太田

[事務局] 津田、井田、藤田

事務局 皆様こんばんは。定刻になりましたので、第23回定例会を開催いたします。本日は、平成25年5月28日に国立市教育委員会、是松教育長より諮問を受けました家庭教育支援の充実について、約2年間、松田議長のもと、本委員の皆様が熱心にご議論いただきました内容を取りまとめた答申書を提出いただく会となっております。どうぞよろしく願いいたします。

まず、4月の人事異動により、事務局の体制が変わりました。清水社会教育・体育担当係長が異動となり、後任が井田社会教育・体育担当係長となりました。どうぞよろしく願いいたします。

次に、本日の配付資料の確認を行います。

まず初めに、「第20期国立市社会教育委員の会 答申」ということで、答申のかがみ文と答申の本文が続いています。短い期間の中で、ご確認いただき、大変ありがとうございました。

2番のその他というところで、封筒が皆様の机のお手元にあるかと思うのですが、先日の土曜日に、都市社連協の総会があきる野市でございまして、係長の井田と私のほうで出席いたしました。そのときの資料になります。この後に講演会がございまして、講演会の配付資料と、26年度の社会教育委員活動記録という冊子がお手元にあるかと思えます。そちらのほうはまたご自宅にお戻りになってから、ぜひごらんいただければと考えております。

配付資料の確認については以上になります。

では、続きまして、答申書の提出に移ります。本来ならば是松教育長が受領するところですが、所用がありますので、代理の宮崎教育次長が行いますので、ご容赦願います。

それでは、早速なのですが、第20期国立市社会教育委員の会、松田議長より、宮崎教育次長に答申書を提出願います。向こうでよろしく願いいたします。

松田議長 それでは、諮問を受けました家庭教育支援の充実につきまして、第20期の国立市社会教育委員の会の答申として、こちらを取りまとめさせていただきましたので、お渡ししたいと思えます。どうぞよろしく願いします。

宮崎教育次長 ありがとうございます。

事務局 どうもありがとうございました。

続きまして、松田議長より、答申の作成に当たり、国立市教育委員会にご意見をいただきたくお願い申し上げます。

松田議長 ほんとうに最初、2年間といいますと、長い時間があるように思ったのですが、審議を重ねますととても短い2年間でしたが、大変、社会教育委員の皆様方のお力添えの中で、バランスのとれた答申がまとめられたのではないかと考えております。

特に、この答申で一番大きな意図としてまとめておりますことに、家庭教育というのは本来、各家庭がそれぞれでご自身の目標を立て、子どもたちの

これからの自己実現に向けて成長を促していくところがございますので、まずはそれぞれのご家庭がそれぞれの目標をしっかりと立て得る環境や、あるいはそういう支援というものを行政のほうでしっかりと計画いただいて実施していただくということを節に願うようなところの答申となっていると思います。

具体的には、支援のつながりと多様性ということ 키워ドに取りまとめさせていただいておりますが、何分、家庭教育ないし家庭教育支援ということが社会教育委員の会でも少し新しい課題として取り組んだということもございますので、不十分な点も多いかと思っておりますけれども、今後さらにこれを、枝葉をしっかりとつけていただいたり、あるいは全体的な生涯学習計画の中で育成していただくような形で使っていただければと、委員一同ほんとうに望外の喜びでございます。

委員の皆様も長い時間、ほんとうにいろいろお力添えいただきましてありがとうございます。

以上でございます。

事務局 どうもありがとうございました。

続きまして、宮崎教育次長より、第20期国立市社会教育委員の会の皆様にご挨拶いたします。

宮崎教育次長 こんばんは。教育次長の宮崎でございます。ただいま、社会教育委員の会様から、家庭教育支援の充実について答申をいただきました。私はこの会議、会議録が全言記録になっておりますので、毎回しっかり目を通させていただいておりますが、私もこれまで結構長いこと役所におりますので、相当他の附属機関、委員会等の会議にかかわってくる中で、これほど活発な議論がされている委員会は見たことがないなど。毎回、これだけの議論がされている中で、松田議長、答申をまとめてくださるに当たっては大変な苦勞をされたのではないかと感じておりました。

こういった答申をいただきまして、私ども行政がいかんこれを実践に移していけるか、それが使命であり、課題であると考えております。なかなかこれまでいただいてきた答申をしっかりと生かしてきれていない部分があるかと私どもは感じておりますので、これは実は津田課長ともども相談して、これを今後生かしていけるような体制でやっという相談を考えているところがございます。

いずれにしてもこの2年間、ほんとうに積極的な議論をいただき、こういったすばらしい答申をいただきましたことを感謝申し上げます。ほんとうにありがとうございます。

事務局 どうもありがとうございました。

宮崎次長はここで退席させていただきます。

宮崎教育次長 失礼いたします。ありがとうございました。

事務局 続きまして、第20期の委員の皆様より、任期を終えての感想などをいただきたいと思います。

恐縮ですが、柳田委員からぜひお願いできればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

柳田委員 着席で失礼いたします。

私は、専門分野からかけ離れたところでしたが、皆様の活発な、いろいろなご意見等を聞かせていただきまして、非常に多くのことを勉強させていただきました。ほとんどお役に立てなかったと思っておりますが、先ほどのご挨拶の中でもありましたように、今回の答申を受けて、必ずや実践していただけたらと望んでおります。どうもありがとうございました。

事務局 ありがとうございます。
では太田委員、よろしく願いいたします。

太田委員 私は何か事情がよくわからないままに、わりと思いついたまま発言してしまった2年間であったと反省をしておりますが、先ほどのお話にもあったのですが、大変毎回議論が盛り上がり、エキサイティングな2時間を毎月過ごすことができたというのが、個人的には大変楽しく、よい経験をさせていただいたと思っております。

また、答申をまとめるに当たっては、最後、議長にかなりのご負担をおかけして申しわけなかったなと思っております。あんまり最後の調整のときにも、何か役に立つことができなくて、ほんとうにそれが最大の反省点です。どうもありがとうございました。

事務局 ありがとうございました。
猪熊委員、よろしく願いいたします。

猪熊委員 私は、やはりこの委員会の特性として、録音されて、全て名前とともに発言が出るということから、あまり立場上、発言ができなかったことが非常に残念だったなと思うところがあります。そして、その発言ができなかったことに対し、指摘を受けたりすることもありまして、非常にここに来ていることが心苦しいことが、いつも来ながら思っていたのですが、少しでも答申文章を書くときにお手伝いできたら、お力添えできたらいいかなと思っていたのですが、それもすっかり松田先生にお世話になってしまって、ありがとうございました。

だけど、国立市内の中には、子どもたちとか、子育てをしている私たちのような母親とかのことを、家庭のことをすごく考えてくださる方がたくさんいらっしゃるのだなということがわかって、2年間、ここに楽しく通わせていただきまして、ありがとうございました。

事務局 どうもありがとうございました。
武澤委員、よろしく願いいたします。

武澤委員 私は素人ながら、この委員をさせていただきまして、最初はいろいろ考えていたのですが、どうもいろいろ皆様と話していると、私の考えが大分違うかなと思ひまして、それからちょっと発言を遠慮するようになりまして、その後は皆様のご意見を聞くということが多かったと思ひます。

ただ、この2年間、いろいろ教えていただきました。学者の方々、それから教育に実際に携わっている方、それから父兄の方、そういう考えをいろいろ教えていただきましたので、これをまたこれから生かして、いろいろやっていきたいと、NPOとかそちらのほうの活動で生かしていきたいと思っております。

今、皆様から出ましたように、松田先生には大変ご負担がかかったようでございますけれど、ほんとうにありがとうございました。

以上でございます。

事務局 ありがとうございます。
佐藤委員、よろしく願います。

佐藤委員 家庭教育支援の充実についてという諮問を得たときには、家庭教育への支援というのは何ができるのだろうか、また、どの程度していいものかというのを、すごく疑問もありましたし、議論の内容にもなかなか先が見えない、そんなふうな流れで来たと思いました。みんなでいろいろ意見を言い合いましたが、私は公民館の運営審議会の選出ということで出ております。公民館というのは、家庭学習支援の拠点ということに法律上もなっております。そういう役割を公民館が果たしているかということ、ここでの議論を、審議会を通じて、公民館のいろいろな活動に意見を出していくこともできるかなと思って、そういう思いもありながら、この2年間、皆様のご意見も聞きながら、話もさせていただきました。

ほんとうにいろいろな方面にわたった話を最後にまとめるのがどれだけ大変だったかというのが、正直なことを言えば、松田議長のお力がなかったら、最後、まとまらなかったなと思っております。

それと同時に、傍聴に毎回おいでになる方がいたと。これは、緊張関係ももちろんありますけれど、そういうふうに私どものやることに対して関心を持っていただく市民の方がおいでになるということもありますので、そういう意味では、とても充実していたのではないかなと思っております。何とかまとめていただいたのは、皆様のおかげだと思います。ありがとうございます。

事務局 どうもありがとうございました。
川廷委員、よろしく願います。

川廷委員 家庭教育支援ということで始めたのですけれども、その範囲がなかなか自分でも見えてこなかったり、場合によると、議論がどちらに行くのかというのがわからなくて、とてもついていけないというときもあったのですけれども、私が図書館協議会からの選出ということなので、図書館の現状というのだけは皆様にぜひ知っていただくというのは最低の仕事だなということで、何とか気持ちを落ちつかせてやってきました。

先ほど教育次長さんが、こんなに活発な議論のある委員会はないのではないかとおっしゃったのって、ほんとうにお世辞ではなくて実感なのかなと思うほど、ここの会議は、私はほんとうにしんどく、大変だったなと思います。

最後、松田先生にはいろんな意見をまとめていただいて、お仕事をしながらほんとうに大変だったなと、しみじみと思いました。どうもありがとうございました。

事務局 ありがとうございます。
矢野委員、よろしく願います。

矢野委員 2年間、ほんとうにお世話になりました。私は、その前もあれですから、4年お世話になった方もいて、ほんとうにありがとうございました。特に松田議長、皆様もおっしゃったように、私も自分の無力感というか、ほんとうに申しわけない、先生が大変言うに言われぬ心身ともに大変だった時間を過ごされたことだと私も推察します。ほんとうにありがとうございました。

印象ということで言いますと、感想というか、大変私も勉強になりました。議長がお書きになった最初と最後のところがありますが、やっぱり戦後70年で、私は、先生もここにお書きになっていますけど、戦争とかそういうことではない、激しい変化が今起きていると。なかなか日本にいて、NHKを含めて、ニュースなんかもドメスティックなことが多過ぎるのですけど、ヨーロッパ、中東、アジアを見ても、けさもずっと見ているといろんなことが起きている。これが全く無縁のように見えるのですけど、経済に特にあらわれますけど、子どもたちの世界も含めて密接に我々に関係している社会がどんどんいや応なしに進んでいくと思うのです。そういう中で、時代認識とかそういった多様性の中で我々が議論したということは、多様性ということはいろいろなキーワードになっていますけれども、これもやっぱり進まざるを得ない。

イギリスも再来週に総選挙があって、この前もキャメロン政権が保守党、単独政権とれなかったですけども、今日あたりも、スコットランド民族党、あそこがキャスティングボート、50席ぐらいとるという放送をしていますけれども、そういう多様性の社会にどんどん我々が向かっていくと思うのです。

子どもたちにどういうことを我々大人がメッセージできるかということ、時代時代、みんな苦勞してきたと思うのですけれども、私はほんとうにこの2年間、こういうことを学ばせていただいて、孫も3人、だんだん大きくなってきて、よりよい社会の糧となるというのは大げさかもしれませんが、これからも自分ができることがあれば、地域の中で——環境用語で、佐藤さんが言われたのですけど、地球規模で考えて地域で活動しようという環境の言葉がありますよね。最近はあるまい言わないのですけど、私は教育なんかと同じだと思うのです。やっぱり地球規模で考えて、自分の足元の地元のところでどうそれを述べ伝えたり実現するかということが大事だと思いますので、ぜひ行政の皆様にも、これからよろしくお願ひしたいと思います。

事務局 どうもありがとうございました。
根本委員、よろしくお願ひいたします。

根本委員 ほんとうに2年間、皆様にはお世話になりました。また、事務局の皆様にもお世話になりました。ありがとうございました。

私は、学校サイドからということここに出させていただいたのですけれども、やっぱり学校と家庭というのはほんとうに密接な関係にあり、両輪として一緒にやっていかなきゃいけないという、学校サイドからは保護者の皆様にいつもお願ひをしているところなのですけれども、学校サイドからの見方はほんとうにそうなのですけれども、この場で逆に家庭での教育の、家庭側、市民側からの思いというか、そういったものについて、何か皆様にご示唆してくださった中でいろいろな学びがあって、2年間出られてよかったなと。

最初は、このテーマそのものが密接にありながらも、家庭教育の支援ってというところが、自分の心の中にすんと落ちるまでに結構時間がかかって、ただ、皆様のご意見を聞いている中で、大切にしなきゃいけないものはこういうものなのだなとか、これから社会というのはこういうふうになきゃいけないのだなというのを考えさせてくださったときだったなというのをすごく感じて、ほんとうに感謝しています。

こんな、ほんとうに議長をはじめ、皆様のご意見をいただいて、最後も議長がこんなふうにとめてくださって、これは結構宝だなと思いますし、こ

れを、宮崎教育次長がお話ししてくださいましたけれども、市として生かしていくのだという力強い言葉をいただいたのですが、やっぱり私は学校の人間なので、行政と学校も一緒なのですね。だから、同じように、その中の1つの教育機関というふうに考えて、学校としてやれるところについては一緒に協力をしていきたいなと思いました。

いろいろ力になれませんでしたけれども、ほんとうにお世話になりました。ありがとうございました。

事務局 どうもありがとうございました。

第20期国立市社会教育委員の会の皆様、事務局の至らない点が多々あったかと思いますが、2年間ほんとうにありがとうございました。委員の皆様のますますのご健勝をお祈りしますとともに、事務局は本答申でいただきました家庭教育支援の多様性をつながりにかかわる取り組みを実践し、国立市に暮らす子どもたちの豊かな未来を開いていくことに努力してまいります。

これにて本日の会議を終了します。お疲れさまでした。

— 了 —